

復興応援団だより

2012.1.1/ N010
発行元：
一般社団法人
復興応援団
広報チーム
022-393-9331

トマトの種植えお手伝い

農業で被災者雇用応援プロジェクト#14



12月8・9日、南三陸町歌津地区で「農業で被災者雇用応援プロジェクト」を行い、7名のボランティアが参加しました。今回は、小野花匠園さんで1年振りトマトの種まきをお手伝いしました。

トマトを育てると、スの中で、種植えの人手を必要とするように短時間で多くの作業は、素人でも役立つことができます。南三陸の人々と全国から来る人々が共に作業することで、学び合うこともありま

す。プロジェクト内で実際に南三陸の物を買ひ、関わった地域に愛着を持つことは、とても大切です。冬でも温かいビニールハウスの中で、トマトの種を植えました。小野花匠園さんの今年のトマト3600株の全てを植えるという事で責任は重大です。トマトの種はとても小さく(約1ミリ)、飛ばさないように皆さん真剣に植えていきます。無事、種まき作業が終わり、上から優しく土をかぶせてビニールで覆います。

山王仮設クリスマス会

12月16日、多賀城市の山王市営住宅跡地仮設住宅でクリスマス会が開かれました。団地内の「お茶っこ会」発起人の小山誠さんを中心に、住民の皆さんが主催しました。午前中は集会所の飾り付け。紙のリングを鎖状につなげた飾りや花の飾りを壁に貼り付け、窓にステッカーでイラストを描きま

す。定期的に開かれるお茶っこ会に参加した住民の皆さんが紙で作ったツリーも登場し、クリスマススムード一色となりました。

お昼過ぎになると、高校生以下の子供が居るお宅にクリスマスプレゼントを配布しました。サンタクロースに扮した小山さんが子供たちにプレゼントを渡しに行きます。最初は恥ずかしがっていた小山さんですが、サンタ服がよく似合っています。「メリークリスマス！」と大きなプレゼントを手渡していきま



す。プレゼントをもらった子供たちはとびつきの笑顔を見せていました。今後、自分達ができる範囲で、住民自身の手でイベントが開催できれば、と小山さんと住民の皆さんは話します。

く、トマトの味で勝負したい。本当においしいものを作っていたら、買ってもらえるはず」と力強く語ります。作業2日目は、菊の収穫をお手伝いしました。オペラ、ラオナ、シカゴなど多くの種類があり菊はとてもきれいです。背丈の長い菊収穫用の鎌を使い一本一本丁寧に刈っていきます。収穫した菊は、束ねられて仙台園のデパートなどで直販されます。プロジェクト4日後にはきちんとトマトの芽が出たそうで



復興応援団とは

私たちは「一般社団法人復興応援団」は、被災地の復興のために活動しています。活動の目標は①東北地域の復興②被災者の生活の安定③被災者の就業支援④被災者の生活の向上⑤被災者の心のケア⑥被災者の健康増進⑦被災者の教育支援⑧被災者の文化振興⑨被災者の国際交流⑩被災者の国際協力

「ボランティア活動」は、被災地の復興のために活動しています。活動の目標は①東北地域の復興②被災者の生活の安定③被災者の就業支援④被災者の生活の向上⑤被災者の心のケア⑥被災者の健康増進⑦被災者の教育支援⑧被災者の文化振興⑨被災者の国際交流⑩被災者の国際協力

「多賀城市での復興」は、被災地の復興のために活動しています。活動の目標は①東北地域の復興②被災者の生活の安定③被災者の就業支援④被災者の生活の向上⑤被災者の心のケア⑥被災者の健康増進⑦被災者の教育支援⑧被災者の文化振興⑨被災者の国際交流⑩被災者の国際協力

おちほのヒーロー

アーティストの高田彩さんは、塩竈市を中心に、アートと地域の距離を縮め、まちを盛り上げる活動に取り組んでいます。

現在の活動のルーツは、カナダでの留学生活にあります。街中にあるスケーターの若者たちが、まちづくりへの提言をする姿に驚いたそうです。「自分自身がまちの歴史や文化を作るんだという若者の姿、皆がごく当たり前に社会とつながっている姿に衝撃を受けました」文化を創る者としての自分の生き方に責任を持ち、社会と関わる。その価値観を日本にも広めたいという思いを抱いたそうです。「まずは、自分自身がギャラリー空間から外へ出て地域や社会に関わる。アーティストとしてそこに責任を持つことが必要だ」という思い、地域

に貢献したいという思いがありました」高田さんは、志を共にするアーティストの仲間たちと、地

元塩竈で06年にビルド・フルーガス設立。アーティストの

filed 高田彩さん (32) ービルド・フルーガス代表 (塩竈市)

「アートの力で地域を盛り上げる」



ビルドスペースと名づけたギャラリーで、展示会やワークショップを開催し、地域のの人にアートの触れてもらおう機会をつくりました。「飛び出すビルド」のワークショップ

能力や技術を地域社会に活かす活動に取り組んできました。

活動では、いろいろな地域に出向き、そこの子供たちとアートの出会いを創り出してきました。ワーク

漁業&ブルーツーリズム開発応援プロジェクト#5

12月15・16日、南三陸町で5回目の「漁業&ブルーツーリズム開発応援プロジェクト」が、地元漁師、高橋さんの取組みをお手伝いしました。美

高橋さんは、海産物を買ってくれる顧客コミュニティの形成を目指し、参加者が漁業に触れるブルーツーリズム事業に取り組んでいます。

フグ、アイナメが合計で8匹も釣れました。そのうち3匹は30センチ程の立派なカレイでした。

今回のプロジェクトの目玉も、漁師が教える「手ぶらでフィッシング」です。12月の寒さの中でしたが、釣果は上々でした。高橋さんに教えてもらいながら、カレイ、



た。そのうち3匹は30センチ程の立派なカレイでした。養殖業では、ホタテの耳吊作業をお手伝いしました。これは、ホタテの「耳」と呼ばれる部分に穴をあけ、養殖用ロープに取り付けていく作業です。ホタテを付けたロープを海中に沈めて、翌年の夏に水揚げします。この冬に養殖開始

ショップを通して地域の求めるものが次第に見えてきたといえます。その矢先に起こったのが、東日本大震災。ギャラリーの展示作品も被害を受けました。しかし、震災後もそれまでの活動のスタイルを継続してきました。「今こそ、自分の関わるアートという分野で、地域から求められることを続ける必要がある」と思ったんです。子供たちがストレスを発散し、心から楽しむ時間をつくる

ため、保育所で映画の上映会やワークショップを主催しました。12年4月には、住民の皆さんの要望を受け、多賀城市の高橋公園仮設住宅で、表札づくりのワークショップを開催しました。住民の皆さんが楽しく会話しながら、自分達のオリジナル表札を作り、団地内を彩りました。「まちづくりは、自分がここで楽しく生きるにはどうしたら良いかを考え、自分にできるやり方で地域に関わることで

【南三陸】
○2月10日(日)ー11日(月) 農業で被災者雇用応援プロジェクト#16
す。自分たちが主人公なんです」高田さんは話します。
現在は、町の魅力を伝えるウェブサイトを作り、地域の若者が日々の中で気づいたことを発信する活動にも関わります。住民一人一人の意識を変え、仲間が増え、活動の輪が広がっています。地域の人がそれぞれ存在価値を感じながら、より良いまちづくりに関わります。「自分自身が、社会やまちづくりに関わる活動を楽しみたいことが大切だと思います。その姿を見て『私にもできるかも』という人が増える。塩竈で、自分がやりたいことを行動に移す人がもっと増えていってほしいです」

今後の予定